

学校評価シート（自己評価）

十文字女子大附属幼稚園

1、園の教育目標

幼児の自主性、自発的な活動を大切にする保育の実践を基本目標とする。

幼児が自分達で考えた自由な遊びを中心とした園生活の中で、小学校就学までに幼児として必要な全てを身に付けさせることを目指して、家庭と密に連携しながら、次の教育を行う。

1. 保育者は、幼児一人ひとりの個性、能力を認めて無理させずに個々に対応する保育を心がけて長所を伸ばし、幼児が友達と深く交わって遊ぶ中で協調性、考察力、忍耐力、相手を受け入れつつ自己を主張できる社会性が身に付くように援助する。
2. 保育者は、本園の自然に恵まれた環境を十分に活かし、安全に成長が出来るように関わり、幼児が四季の移り変わり、生物への関心など周囲の環境に対しての探究を深められるように援助する。

2、具体的な目標や計画

1、教育・保育活動を充実させる取り組み

- ・保育者自身の向上に努める
- ・協力して全力で保育にあたる人間関係、環境を整える
- ・外部への情報発信とともに、外部からの意見聴取の機会を設ける。

2、保護者との連携を推進する。

- ・保護者が園と関わる機会を増やす。
- ・保護者の育児向上につながる情報を提供する。
- ・保護者の生活形態の変化に対応する。

3、地域との連携を推進する。

- ・近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果 (※)	結果の理由
保育者自身の資質向上に努める	A	前年度の引き継ぎ事項をまとめ学年ごと細かく引き継ぎを行ったので、見通しを持って計画し実践することができた。学期末に行う「保育を語ろう会」、外部講師を呼んでの研修会等園内研修が充実し、各自が保育向上に努めるようになり、園全体の保育の質向上に繋がった。
協力して保育にあたる人間関係、環境を整える	A	伝達事項をすぐ共有しあう体制ができ、全員が状況を把握し対応できるようになり、結びつきや連帯力が強くなった。悩みを共有して共に考えることで学びあうことができた。フリーや預かり保育担当者との連携が課題であり、情報共有の時間がとれるよう体制整備が必要である。

外部への情報発信とともに、本大学や外部との連携協力を強化し、意見聴取の機会を設ける。	A	はらっぱ・ブログ・大学の授業・実習・公開保育等を通して幼稚園の保育を知らせる機会を持った。専門領域に近い本大学教諭に「保育公開」を実施した。コロナ禍でターゲットの重要性が増した。学年ごとに定期的に担任目線から発信することでリアルな姿を保護者に提示できた。在園児の保護者に保育の様子を知らせるブログと、広く一般が見るブログが同じでいいのか問題である。
保護者が園と関わる機会を増やす	A	内容の充実を図り、少ない機会を生かせるようにした。親子で遊ぶ日、保育ボランティア(年長保護者)は、子ども理解に繋がった。保護者交流の機会が持ちにくかったが、日を決め園庭開放で交流した。保護者アンケートを初めて実施した。園の方針に対する理解・評価を大半の設問で得られた。保護者の意見を園長・主事が受け止め、必要な時は父母会に相談し、保護者向けに手紙を出し意見を聞くようにした。全教員で保護者の意見を共有し、要望を出来る限り受け入れるよう努めた。
保護者の育児向上につながる情報を提供する	B	子育て講座「はらっぱ」はオンライン参加も可能になり、以前より気軽に参加できるようになったが、参加する保護者が決まってきたおり、もっと参加を促していきたい。保護者懇談会では保育写真を提示し具体的に伝えたが、分かりやすいと好評だった。
保護者の生活形態の変化に対応する。	A	「きりん組」は実施日数、時間を増やし、働く保護者の要望にも出来る限り応えられるようにした。園の保育とのつながりを意識して、担当者が内容の見直しをすすめ、遊びの幅が広がった。コロナ対策にも努めた。
近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。	B	コロナ禍で、地域連携のプロジェクトの開催がほとんどなかった。年度初めにオンライン会議で幼保小の集まりを実施した。子ども同士の直接的な交流は難しかったが、手紙やビデオ等のツールを使うなど方法を模索し小学校と連携した。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	コロナ禍の保育も2年目となり、昨年度を継承しつつ、さらに職員で話しあいを重ね、保育活動の充実、保護者との連携推進、外部への発信に最大限努めた。保護者の評価・要望を今後の園運営に反映していくために、保護者アンケートに取り組み、結果を保護者に返した。大学と連携を密にするため、「保育公開」を実施した。地域との連携は出来る形を工夫して実施したが、地域との連携をさらに深められるように努めていきたい。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者のさらなる資質向上を目指す	フリーの保育者を交えての話し合いの時間を持って、共通理解・連携をさらに深めていく。園内研修、大学や外部に開く「保育公開」等を充実させ、より開かれた幼稚園づくりに努め、園の保育改善を進める。
保護者が園と関わる機会を増やす	実施した保護者アンケートの結果を受け止め、園運営に活かしていく。コロナが収束したら、園の保育に保護者が参加する機会をさらに増やし、保護者同士の交流を充実させていく。園長・主事・担任が懇談や相談の機会を随時設定し、保護者の思い・要望を受け止める。保護者の相談・要望に対して、園としてどう考え、どう対応をしたかということを丁寧に保護者に戻していく。
近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。	地域連携のプロジェクトに積極的に協力し連携を深める。 近隣の未就園児を抱えている親子が園に来る日を設けるなど、新たな取り組みを模索する。他園の保育者や幼児教育研究者の参観申し込みを積極的に受け入れる。 14年前から継続している「はらっぱ」（十文字学園女子大学の教員、外部講師による講演会）について広く発信して、近隣の子育て家庭の参加を広げていく。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 2022年3月7日（月）

15:30 ~ 17:00（時間）

出席者 外部評価委員（5人）

内部評価委員（2人）

幼稚園園長・幼稚園主事

幼稚園事務

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

1. 教育・保育の充実については「資質向上」を第一に掲げてあり、計画としても保育者自身が取り組むこと、園として取り組むことのように段階的な設定となっておりよい

2. 外部への情報発信、連携協力については初めて保護者アンケートを実施し、丁寧に保護者の意向を把握しようとしている。

以上の事から、適切であるといえる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

・園児の実態を把握した上での保育を行うために、小学生以上の丁寧さが求められていることがうかがえた。また、引く次を地道に取り組んでいることが評価されている。

・資質向上に関しての研修も計画的に行われていることがうかがえる。

以上のことから、適切であるといえる。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

・協力してあたる部分の中期計画が「人間関係」から「チーム幼稚園」としての体制づくりと組織をふまえた計画設定になっており、よい。

・保護者のニーズ「預かり保育」に対して丁寧に対応しようとしている。

以上のことから、適切であるといえる。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

今後取り組むべき課題のため、ここでの評価はできない。
従って回答はしない。